

平成 28 年度「神奈川県看護師養成機関連絡協議会の活動報告」

《平成 28 年度機関長会議が開催されました》

式次第

- 1 開催日時 平成 28 年 11 月 22 日（火） 13 時 00 分～16 時 30 分
 - 2 開催場所 神奈川県総合医療会館 看護協会第一研修室(6 階)
横浜市中区富士見町 3 番 1 号
 - 3 対 象 神奈川県看護師等養成機関 機関長、教務主任（又はその任にある教
 - 4 内 容
- 13:00 開 会 司会 増田副会長
- ・会長挨拶
神奈川県看護師等養成機関連絡協議会会長 城戸会長
 - ・来賓挨拶
神奈川県保健福祉局保健医療部保健人材課副課長 長岡美穂様
神奈川県看護師等養成実習病院連絡協議会会長 新江良一様
神奈川県看護協会会長 篠原弘子様
 - ・来賓紹介
- 13:20～14:15 第一部 事前アンケート結果報告とテーマに対する指定発言
テーマ 「看護教員の教育力向上のための取り組み」
- 司会 増田副会長
- 事前アンケート結果報告 城戸会長
- テーマに対する指定発言
- | | | |
|------------------|------|---------|
| 聖マリアンナ医科大学看護専門学校 | 副校長 | 伊藤 泉先生 |
| 厚木看護専門学校 | 科長 | 五十嵐一美先生 |
| 横浜市医師会保土谷看護専門学校 | 専任教員 | 池田京子先生 |
- 14:30～15:25 第二部 指定発言を受けてのグループでの意見交換
- 15:25～16:20 第三部
- グループでの討議内容の発表と質疑応答 司会 増田副会長
- 指定発言者より追加発言
- 16:20～16:30 アンケート記入
- 16:30 閉 会 司会 高橋副会長

◀ 神奈川県看護師等養成機関連絡協議会機関長会議を終えて ▶

副会長 増田信代

平成 28 年度の神奈川県看護師等養成機関連絡協議会機関長会議を、来賓の方 5 名、会員 48 名の皆様のご協力を頂き、無事に終了することができました。

今回のテーマは、「看護教員の教育力向上のための取り組み」でした。指定発言者には、施設長の立場から聖マリアンナ医科大学看護専門学校副学校長伊藤泉先生、教務主任の立場から厚木看護専門学校看護第一学科長五十嵐一美先生、専任教員の立場から横浜市医師会保土谷看護専門学校池田京子先生に行って頂きました。伊藤先生からは、看護教員の教育向上のために、学校独自のキャリア発達ラダーを明確にし、目標管理をされていることのお話がありました。五十嵐先生からは、看護学校でパートナーシップを導入し、実習場面の教材化など先輩の姿から多くの学びや、教員同士の情報共有とそのための時間の確保等の課題のお話がありました。池田先生からは、「働きながら学ぶことでの数々の発見や自身の成長」、「看護教員としての成長を感じあう職場」などについてのお話がありました。そして、指定発言を受けてのグループワークでは、各校の状況の共有と今後への示唆が得られていました。昨年は、新人看護教員への支援についての会議を行い、今回は、役割による教育への取り組みを考える会議でした。『よりよく』を目指すには、視野を広めていくことが大切と考えます。その場が、身近にあるということは、とても恵まれた環境であるとも思います。今後も、城戸会長のリーダーシップの元、皆様のご協力を頂き、神奈川県の看護基礎教育が発展していけるように取り組んでまいりたいと考えます。

◀ 支部活動報告 ▶

西部支部

支部長 飯塚 貴美子

本年度の教員研修は、6 月 18 日（土）に教員研修部会との共催で国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 看護学科において、「社会人経験を有する学生への学習支援」をテーマに、川崎市立看護短期大学 看護学科の高野真由美先生に講演をして頂きました。社会人経験のある学生が少しずつ増えている中、今までの社会人としての経験や背景を持つ学生の特性を活かし支援するための示唆が得られ、今後の学生への教育的関わりに活かしていける内容でした。

看護学生のつどいは、湘南平塚看護専門学校が当番校となり、10 月 21 日（金）に伊勢原市民文化会館で開催しました。日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士の小山珠美先生に、「私のナーシングマインド～食べる支援の重要性と課題～」とし講演をして頂きました。困難があっても信念をもって食べることへの支援を行ってきたことが実感でき、「生きる力への支援」、「看護の本質」、「看護師の役割」を考える機会となり、学びの多い『看護学生のつどい』となりました。

東部支部

支部長 柴田 いつ子

本年度の教員研修は、教員研修部会との共催により 7 月 23 日（土）、北里大学看護学部基礎看護学教授の戸田肇先生より「臨地実習における学びを支える教育実践～教材化の発見」というテーマで開催しました。臨地実習の事例を基に、様々な視点から、学生の実習体験を看護として意味づけることの大切さ、そしてその体験から気づきや学びをどう引き出すかについて学ぶ機会となり有意義な研修でした。

看護学生のつどいは、相模原看護専門学校が当番校となり 10 月 19 日（水）川崎市教育文化会館にて開催致しました。都立広尾病院での薬剤取り違い事故の犠牲となった永井悦子さんの夫の永井裕之さんを講師にお招きし、「医療倫理観を養うと同時に安心できる医療」について考える機会としました。また、他校の学生とより交流がもてるようアイスブレイク・バズセッションを行ったところ参加した学生は医療事故を自分の事として受け止め、医療者という視点で観るのではなく、人間として正しいことをすれば倫理に基づき行動できるのではないか等、具体的な内容に踏み込んで相互交流を深めていました。

南部支部

支部長 ハツ橋のぞみ

本年度の教員研修は、8 月 27 日（土）に「人として学生を支える教育実践」のテーマで防衛医科大学校の安酸史子教授にご講演を頂きました。講演では経験型実習教育について、経験の意味づけが教師の役割であることや教材化の重要性についても改めて考える機会となり、「実践につながる内容だった」という意見が多く聞かれ有意義な研修になりました。参加人数が多数となり会場選択など課題が残りました。

看護学生のつどいは、横浜市医師会保土谷看護専門学校が当番校となり、10 月 4 日（火）に開催しました。「音楽と人との関わり」というテーマで、東京芸大大学院の萩原史織先生からリズム遊びを取り入れたご講演を頂き、会場全体が一体となりひとつのリズムを奏でる、という体験をしました。学生からは「音楽がもたらす心への影響」「音楽やコミュニケーションについて考える機会となった」「リズム遊びが一体感がもてた」など意見が聞かれる一方で、「つどいの意義」や「もっと看護に関する話を聞きたかった」という意見もあり、今まで以上に学生間の交流の持てる内容を考えて行きたいと思っています。

《 部会活動報告 》 教員研修部会

部会長 鈴木 昌子

新人研修も3年目を迎え内容も充実し、新人教員47名、ファシリテーター12名で活動しています。残すところあと一回、2月18に予定しています。今年度4月から新人研修に先駆けてファシリテーター研修を実施したこともあり、有意義に新人研修が進んでいます。6月の第1回目は新人同士が互いに知り合い、右も左もわからない状態でしたが、半年以上経過した11月には大方の新人が自己の教員としての役割を自覚し、課題を持ちながらも意欲的に日々教育に取り組んでいることが生き生きと語られていました。2月は1年間を振り返り、自信と課題を持ちつつ、自分を認め、成長した自分自身と、明日への希望が持てるような1日になればと考えています。

3支部の教員研修はどれも好評で、日々看護教育の充実のために奮闘している教員が一歩踏み出すきっかけとなったと考えます。次年度も、教員個々が教育の喜びを感じながら、看護基礎教育が充実・向上・発展するよう活動していきたいと思えます。

広報部会

部会長 沼尻 波留美

平成28年度は広報誌第50号を7月に発行いたしました。年2回発行しておりました『神奈川県看護師等養成機関連絡協議会広報誌』は第50号をもって最後になりました。

今年度発行予定でした第51号広報誌の内容につきましては、平成28年度「神奈川県看護師養成機関連絡協議会の活動報告」としてホームページでの掲載となりました。ご協力をいただきました皆様に感謝申し上げます。

広報部会では部会活動内容の見直しとホームページを活用したより発展的な広報活動が行えるように取り組んでまいります。

次年度も宜しく願い申し上げます。

調査・研究部会

部会長 三島 雅子

平成28年度の調査研究部会では、10月に「神奈川県における看護師養成機関教員の勤務実態調査」を実施致しました。お忙し中、アンケート調査にご協力くださいました教員の皆様には心より感謝申し上げます。現在はアンケートの集計をして、結果をまとめている段階になっております。結果につきましては、「第18回神奈川県看護教育フォーラム」でご報告させていただく予定となっております。

二つ目の活動として、申請に基づき神奈川県看護師等養成機関連絡協議会研究倫理審査委員会を開催し、2件の審査をさせていただきました。

今後も看護基礎教育の質の向上や教員の皆様の教育実践にお役に立てるよう、取り組んでまいりたいと思えますので、引き続きご協力をお願い申し上げます。

教育活動部会

部会長 工藤敦子

場所：県医療総合会館 6F にて			内 容
回数	月 日	出席人数	・ 県看護指導グループ、県実践看護教育センターより連絡事項 ・ 午前：支部活動、午後：部会活動
第 1 回	4 月 14 日	39 名	・ 各役割の決定及び役割内容の確認、年間計画、司会・書記の決定
第 2 回	5 月 20 日	43 名	・ 支部毎の担当役割の確認、年間活動計画、活動方針の検討 ・ 総会
第 3 回	6 月 7 日	39 名	・ つどい経過報告、在宅看護論実習施設連絡会議の進め方検討 ・ 研究助成申請応募について
第 4 回	7 月 12 日	38 名	・ つどい経過報告、在宅看護論実習施設連絡会議の進め方について ・ 臨時総会
第 5 回	9 月 15 日	41 名	・ つどい経過報告 ・ 15 時～在宅看護論実習施設連絡会議 参加者：59 名
第 6 回	11 月 1 日	35 名	・ 在宅看護論実習施設連絡会議の振り返り、つどいの振り返り、研究助成申請：3 件応募
第 7 回	12 月 1 日	35 名	・ つどい報告、研究助成委員会報告、次年度の会議日程、今後の活動内容の検討
第 8 回	2 月 21 日		・ 平成 28 年度評価と次年度活動計画案 （予定）

今年度の事業も無事終了に向かっていきます。ここ数年来の看護師養成所の新設・定員数の増加に伴う実習施設の確保困難、カリキュラムの過密さ、学生背景の多様化や基礎知識・対人関係能力の低下等々、今年も運営上悩むことの多い一年でありました。そんな中で会員校代表の方々と情報交換・意見交換を通して解決策を探ってきたように思います。

ご協力ありがとうございました。

看護教育フォーラム部会

部会長 三沢 伸明

第 18 回「神奈川県看護教育フォーラム」は、平成 29 年 3 月 11 日（土）10：00～16：00 北里大学 L1 号館で開催されます。

今年度のテーマは「看護基礎教育と臨地との共育～すくいあげよう！看護の気づき～」といたしました。学生達が複雑で激しく変化する現代社会を生きるために、「何を知っているか」を学力の中心とする近代型の教育から「実生活や実社会においていかに知識や技能を活用して問題を解決できるか」といった実践を見据えた教育への転換が志向されております。看護教育の場において教員達は、まさにその基礎となる知識、技術を活用し看護に活かすための実践力を身につけるべく教育に日々取り組んでいるところです。「看護基礎教育と臨地との共育」について、交流セッションや研究発表・実践報告（示説発表）を通して考え

ていきたいと思ひます。基調講演は、「気づきの土壌となる看護実践の真価—教育と臨床の協働の接点」について、川嶋みどり先生(日本赤十字看護大学名誉教授・健和会臨床看護学研究所所長)をお願いいたしました。

皆様が有意義な一日を過ごせるよう、部会員一同準備を進めております。皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。

《 看護学生及び准看護生徒のつどい開催を終えて 》

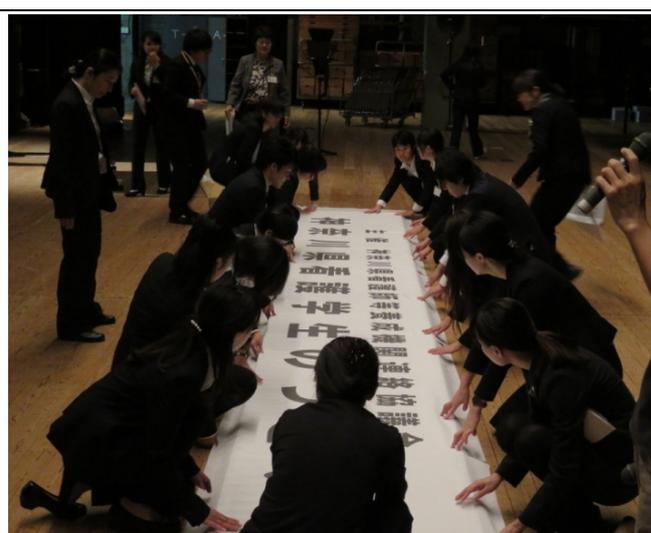
東部支部看護学生のつどい

当番校 相模原看護専門学校 学生代表

今年度の「東部支部看護学生のつどい」は企画・運営を参加校10校で協同し、10月19日に川崎市教育文化会館で開催した。(参加者822名)

開会式前に学生間で交流が持てるようアイスブレイク取り入れ、その後に、講演を聞いた。講師には、東京都立広尾病院での薬剤取り違え事故の犠牲となった永井悦子さんの夫である永井裕之氏をお招きし、医療倫理観を養うと同時に安心できる医療現場にするにはどうしたらよいかを考える機会とした。講演後にバズセッションを行い、活発な意見交換ができ、さらにそれらの発表を通して学びを深めることができた。

他校の生と一緒に当日の運営することで、協同することの楽しさを感じることができた。また、医療事故を自分の事として受け止め考え、「何かがおかしい」が言い合える環境を作ること、当たり前なことをあたりまえでないという目で見ることのできる自分づくりをすることの大切さを学ぶよい機会となった。



西部支部看護学生のつどい

当番校 湘南平塚看護専門学校 学生代表

平成 28 年 10 月 21 日（金）伊勢原市民文化会館にて第 21 回神奈川県西部支部の看護学生のつどいが 798 名の学生の参加のもと開催されました。当番校として主催・運営をしていくことは緊張しましたがとても良い経験ができました。

看護師を目指す学生が同じ場所に集まりより多くの学びが得られたことと思います。基調講演では「私のナーシングマインド～食べる支援の重要性と課題～」をテーマに講師の小山珠美先生の学生時代から現在に至るまでのお話しを頂きました。その後の質疑応答では、5名の学生が質問し、私たちも実習での経験と照らし合わせ、嚥下障害のある患者にどのように関わるのが大切なのか考える機会にもなりました。

人間にとって切っても切り離せない食事について焦点を当てると、人の可能性を信じて口から食べられるようにするだけでもその人の生活も変わってくるのが分かりました。看護を行うことは疾患だけに目を向けるのではなく、生活者と捉え、食事をすることは生きる力にもなるという強い思いが伝わり「口から食べる」大切さについて改めて考えました。看護は人と向き合っていく職業です。今後も常に尊厳を持って人と向き合っていきたいと改めて思いました。

私たちは口から食べることを当たり前だと思ってしまうがちですが看護学生のつどいに参加し、口から食べることの必要性・大切さについて改めて考えることができました。



南部支部看護学生のつどい

当番校 横浜市医師会保土谷看護専門学校 実行委員長 森永裕貴

今回は「音楽療法について」というテーマで、音楽講師の萩原先生にご協力をいただき、音楽と人とのつながりについてご講演していただきました。

音楽は気づくと我々の近くにいます。普段では携帯電話やポータブルプレイヤー等の普及により日常的に音楽を聞く機会が増えています。またショッピングセンターなどでも音楽が流れており、音楽に触れる機会は多いと感じています。

音楽は私たちを助けてくれる力があると考えます。陽気な音楽は私たちを前向きにし、静かな音楽は私たちの心を癒してくれます。また、記憶のカギになることもあります。

今回の萩原先生のお話を通し、音楽との付き合い方を学びました。音楽を聴くことで体にも作用があり、例えば落ち着いた曲を聴くと心拍数や脈拍数を減少させる効果があることや、逆に刺激的な音楽を聴くと上昇させることがあることを学びました。音楽は精神的な効果だけでなく、身体的にも効果があることがわかりました。

また、音楽を聴いたときに感じる、引き起こされる感情もあることも学ぶことができました。それが結びついて自分の感情から記憶をひきだしてくるのかなとも思いました。

この講演をとおして、音楽とのかかわり方のきっかけをつかめ、自分の今後の学習への意欲の向上に、効果的に音楽を用いることができるようになったと思います。ありがとうございました。



准看護生徒のつどい

小田原看護専門学校准看護学科

学生代表 神崎翔子 高橋栞 定岡伸治

最後の准看護生徒のつどいは4校が参加し開催されました。我校は交流会の進行を務めることになり、声の出し方や進行の仕方は難しくリハーサルも少なかったため不安でした。

クイズ形式の交流会は4年目であり問題を考えるのには苦労しましたが、予想以上に盛り上がり「楽しくて時間が足りなかった」という感想も聞かれました。

今年度は最後のつどいということもあり、DVDで学校紹介をすることになりました。学校の歴史を知ってほしい、自分達の思いを伝えたいと作成していきましたが、作成する中で自分たちも知らなかった学校の歴史、先輩達の姿を知ることができました。各校思いの詰まった内容であり思わず胸が熱くなりました。

3校は閉校が予定されておりとても寂しい気持ちでいっぱいです。つどいは同じ看護の道を目指す仲間たちと交流できる良い機会であり、みんなも頑張っているから私たちも頑張ろうという気持ちを新にした一日となりました。



❖シリーズ 学校紹介❖

神奈川県立平塚看護専門学校

看護科長 稲本 ゆかり

神奈川県立平塚看護専門学校は、平成 29 年 4 月から 4 年制の看護専門学校「神奈川県立平塚看護大学校」として新たにスタートします。

本校は、1972 年(昭和 47 年)4月に 3 年課程の看護学院として開設されました。湘南の海、世界遺産となった富士山という雄大な自然や歴史ある七夕まつり、サッカーチーム湘南ベルマーレの活躍などの地域の風土を反映した活気あふれる看護学校です。また、創立 45 年となる本校は、神奈川県立看護専門学校の中でも最も歴史があり、約 2,700 名となる卒業生は、県内をはじめ全国各地で活躍しています。

さて、本校は、3 年課程の過密なカリキュラムを解消し、時代の要請に応えられる看護師を育成するための教育を新しくスタートさせます。

神奈川県立で初の 4 年制の看護専門学校としてスタートするにあたり、卒業生を含めた県内からの厚い期待を受け、職員一同、準備してきました。

そして、ご協力いただく講師の方々のご尽力のお陰で、ナイチンゲール看護思想を反映させ、時代の要請に応じて医療に貢献し続けることができる卒業生育成を願う教育内容となりました。

4 年間の新たなカリキュラムの特色の一つとして、科学的根拠にもとづく日常生活援助を形態機能学から系統的に学ぶことができるようにしました。

具体的には、人が「食べる」という日常生活行動について、形態機能学の講義と演習を連動させ、メカニズムと行動をつなぎ合わせながら学べるようにしています。このことは、日常生活援助として食事介助を行うときの知識となり、技術のエビデンスになると考えています。その上で、時間をかけて食事介助が体験できるようにしたい、気道吸引を数多く体験できるようにしたいなど、学生にとってより良い教育をしたいという思いを込めています。

また、学生の育成にご協力いただいていた実習施設の方々のご理解により、これまで以上に連携を深めていく教育システムとしていきたいと考えています。

本校の教育にご理解をいただき、ともに教育していく教員を募集中です。未来の看護師を描きながら新たな看護基礎教育を創りませんか。